行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
106 東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所　村上研究室

第25回大会を終えて

海野道郎

第25回大会が，東北地方で初めて開かれました．これまで何回かのお誘いを辞退してきた基本的な理由は，東北地方の会員数が少ないことでした．そこで，かなり前から「行動科学研究会」という小規模な研究会を立ち上げ，足腰の強化を図ってきました．その結果，本学会の小グループ活動でもあるこの研究会を基盤に，その幹事・木谷 忍氏を事務局長として，本大会の実行委員会を組織することができました．第1回の実行委員会は，昨年6月18日という異例とも思われる早期に開催し，会員への勧誘，関連学会への協力要請など，大会開催に向けた環境づくりを始めました．大会のホームページも開設しました．その結果，6つの学会からの協賛を得た他，幅広い分野からの入会者を得て，東北地方における学会の知名度を上げるという意味でも成功したと考えております．

大会開催資金については，独立採算制のもと，大会参加費（予算の6割程度）以外の収入確保に腐心しました．不景気の折，純粋な寄付は難しく，理事諸兄からの紹介も含めて，プログラムなどへの広告収入という形を取りました．その中で，公開シンポジウムの企画にあわせて，仙台市の外郭団体・仙台都市総合研究機構からは，資金面を含め多大の協力を頂きました．また，日本学術協力財団の補助金（村上征勝氏紹介），クレコンリサーチコンサルティング(株)の賛助（関田康慶氏紹介）も貴重なものでした．河北新報社には，報道も含めて種々のご配慮を頂きました．大会を無事終えることができたのも，このようなご支援の賜といえましょう．

大会プログラムの作成は，すべて仙台の実行委員会で行いました．佐藤嘉倫・木村邦博両氏を中心に，原 純輔，関田康慶，内田 敬氏なども協力し，シンポジウム3，特別セッション 14，一般セッション 10 が企画・設定されました．会員内外のご協力を得て，参加者数・報告件数とも，統計学会と共催であった昨年を除けば，最多となりました．内容的には，実行委員の専門に影響され，統計手法というより行動計量学の具体的な社会問題への応用が多い，というのが今大会の特徴だったかと思います．

もちろん，すべてがうまくいったわけではありません．われわれの日程は例年とほぼ同じでしたが，社会心理学会大会と重なってしまい，社会心理学系の会員から活躍の機会を奪うことになってしまいました．また，報告申込みや要旨受付などについては，改善すべき点も多々見いだされました．この点については，後に事務局長から報告致します．

ともあれ，今回の大会が本学会にいささかの刺激を与える契機となったなら，実行委員諸氏や渡辺 勉・阿部晃士・近藤博文君など事務局で骨身を惜しまなかった若手諸君の努力も報われることになるでしょう．

最後に，ご協力いただいた会員・非会員すべての方々に改めて感謝いたします．

（うみの みちお：日本行動計量学会第25回大会実行委員長，東北大学文学部）

第25回日本行動計量学会大会

東北大学 木谷 忍

☆大会の概要

日本行動計量学会の第25回大会が，9月5日から7日まで，仙台市戦災復興記念館で開催されました．大会の参加者数は正会員(準会員)は 171 名と例年どおりでしたが，非会員は特別セッションが多かったため 93 名，計 264 名で，統計学会と共催であった昨年を除けば最多になりました．報告件数は 130 件とこれまでの最多となりました．抄録集の売上げも順調で，用意した320部は完売になりました．大会の成功は報告内容や参加者の満足などいろいろな視点から考えなければなりませんが，参加者数，財政上の収支という客観的な数では，会員の皆様のご協力によって，無事に終了することができました．誠に有難うございました．

今後の大会に参考になればと思い，今回の大会開催についていくつか問題になったことを以下に書きます．

大会プログラムでは，当初，シンポジウム2，特別セッション10，一般セッション10，報告件数100件を予定しました．シンポジウムと特別セッションは広く会員に企画をお願いしたほうがよいと考え，会報(昨年12月)で皆様に公募いたしました．しかし，今年3月まで応募が皆無だったため，実行委員会が独自にシンポジウム2，特別セッション10を企画いたしました．一般報告の締切と同時期になって，企画の提案がいくつかあり，新たに4つの特別セッション，1つのシンポジウムが追加された訳です．大会スケジュールや会場確保のことを考えると，学会での中心的な研究テーマについて，いくつかの企画を実行委員会から早い段階でお願いしておいたほうがよかったように思います．

一般セッションへの応募も例年以上の数があり，予定していた報告件数を大幅に上回り，会場の関係から，締切後の報告の申込みについては，お断りしました．実行委員会では締切間際の集中的申込を予定しておらず，会場の窮屈な割当てやスケジュール等におきまして，ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びします．

一般セッションの申込み方法につきましては二，三問題がありました．本大会では従来から大会報告の申込締切の方が抄録原稿締切より早く設定されており，今回もそれに従いました．事務局側からすればこのシステムは相当な負担になります．第一に申込された方のうち，抄録原稿が締切に間に合ったのは7割程度，2割が締切後10日位まで，残りの1割は来ないままです．この1割のうち，連絡があった中で最も多い理由は，希望する日時が合わないというものです．希望する日時を書いて報告の申込みをしている方も数多くいましたが，これを無条件に許容するとプログラム作成に支障がでてきます．報告を希望される会員の方は大会期間中のどこに割り当てられても参加できるという条件のもとで申込みしていただければと思います．今回は大会ホームページを開くことでできるだけ早くスケジュールを公開し，申込み締切から1ケ月以内に報告日時を知ることができるように便宜を図りました．第二の問題として，プログラムと大会内容との間にズレが生じることです．これは大会参加者の期待を裏切ることにも繋がりますが，あるセッションでは報告数が少なくなり，セッションそのものの成立が危ぶまれたものもありました．もうひとつ，些細なことですが，抄録集の原稿についてサンプルを示すなどして，書式を統一をすると良かったと後悔しています．

☆チュートリアルセミナー

チュートリアルセミナーは，大会前日に『複雑系と行動計量学』のテーマで3人の講師の方にお話しいただきました．参加者は約30名で，参加者以外にテキスト23冊の売上がありました．チュートリアルセミナーは運営委員会主催によるものですが，学会大会と切り離すのは難しいようです．大会開催校の運営委員と密に連絡をとり，実質的に大会運営と合わせて行う形が望ましく思いました．

☆研究発表会

本年は昨年以上に行動計量学の応用面に重きをおいたセッションが多く，都市交通，地域医療，投票行動，農業と環境，子どもと生活環境，テストの得点調整，人文科学における数量分析など，行動計量学の学際性を再認識する内容だったと思います．いつものことですが，気になったことはセッションによって参加数がまちまちだったことです．特に参加数が少なかったセッションは，逆にそのセッションに関係する分野において会員を増やせる可能性をもつ分野だと思います．

☆シンポジウム

シンポジウムは3つ開催されました．大会初日は，丸山久美子会員の企画による『「生と死」の行動計量』が行われました．このテーマは数回にわたり行動計量シンポジウムで取上げられております．

大会中日には，開かれた学会をアピールするため一般市民に公開するシンポジウムが開催されました．テーマは『東京の失敗を繰返すな』という少し挑戦的なもので，仙台市の街づくりを考えようとするものでした．まず，仙台市の現状と課題と題して，仙台都市総合研究機構理事長の三浦鐵也氏，新しい都市型施設のコンセプトと題して，エフ・ジェイ都市開発社長の藤賢一氏による基調講演が行われました．その後，河北新報社特報部部長の西川善久氏の司会により，4人のパネラーの新しい切り口による都市づくりに関する提言がなされ，人間行動という視点からうまく纏めていただきました．

大会最終日には，『現代日本の社会構造を探る』と題して，社会学と行動計量学との関係を意識しながら，社会移動，社会階層研究の最近の成果を検討していただきました．

☆総会

日本行動計量学会総会は大会2日目の昼に行われました．柳井理事長挨拶の後，名古屋大学の野口裕之会員を議長に選出し，議事が進行されました．

平成8年度事業報告として，編集委員会（池田央委員長，岡太彬訓(前)和文誌編集委員長，繁桝算男(前)欧文誌編集委員長），運営委員会（田栗正章前委員長）から報告がありました．さらに，決算報告（村上征勝事務局担当理事）および会計監査報告があり，平成8年度決算が承認されました．

次に柳井理事長の平成9年度事業計画についての説明の後，同予算案が村上理事より示され，承認されました．

学会賞授与は貢献賞が功績征勝会員，優秀賞が足立浩平，狩野裕両会員に贈られることが報告され，授賞理由の説明の後，柳井理事長より授賞者に賞状と副賞が手渡されました．

続いて，次期大会が立教大学で行われることが報告され，開催校の池田央会員より挨拶がありました．最後に今大会開催校の海野道郎実行委員長より挨拶があり，総会が閉会されました．

☆懇親会

懇親会は仙台東急ホテルに会場を移し，80名強の参加者を集め，盛大に開かれました．柳井理事長の挨拶，開催校を代表して大橋英寿東北大学文学部長の歓迎挨拶，基調講演をしていただいた藤氏の乾杯挨拶の後，和やかな懇親会が繰り広げられました．最後に，大会実行委員会を代表し，原純輔副委員長が閉会の挨拶をされました．この中で，大会で手伝っていただいた院生の紹介があり，会員一同から感謝の意が表されました．

お知らせ

＜合宿セミナー＞

平成10年3月28，29，30日に、合宿セミナーを予定しています．このセミナーでは共分散構造分析，多次元尺度構成法，IRT，実験データ分析，等について，各講師を中心とした入門的チュートリアル，一般講演，レクレーション等が計画されています（一部のみ，例えば日帰りでも参加可能）．学部生，大学院生を主な対象としていますが，精神的に若い研究者も歓迎します．詳しい日程等は次の会報でお知らせ致しますが，興味のある方は運営委員長（岡田彬訓：okada@rikkyo.ac.jp）あるいはオーガナイザー（繁桝算男：kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp）まで連絡して下さい．

小グループ研究会募集

日本行動計量学会では，研究活動の活性化をはかるため，毎年数件の小グループ研究会に対して資金的援助を行っています．大変遅くなりご迷惑をおかけしましたが，平成9年度の小グループ研究会の募集を下記の要領で行います．

昨年度からの継続，本年度からの新規，どちらでも結構です．奮ってご応募下さい．なお審査結果は，1月上旬にお知らせする予定です．

提出書類：研究会名，代表者，参加予定人数，簡単な内容(50字～100字程度)，活動予定を記載したもの(既定の様式はありませんがA4版用紙を使用して下さい)．

応募期限：平成9年12月20日(土)必着

郵送先：〒171 東京都豊島区西池袋3丁目
立教大学社会学部 日本行動計量学会運営委員会
委員長 岡太 彬訓

なお，小グループ研究会として資金的援助を受けた場合，平成10年4月30日までに決算報告書と3000字～4000字の研究成果の報告書(A4版用紙)を上記郵送先に送付していただくことになります．

お問い合わせ：岡太(Tel.03-3985-2319)までお願いします．

＜欧文誌編集委員会より＞

日本行動計量学会の欧文機関誌、Behaviormetrikaは、ご存知のように、これまで、カテゴリカルデータの分析、共分散構造分析に関する特集号を刊行致しました．次の特集号は、マッギル大学の高根芳雄教授をゲストエディターに迎え、ニューラルネットワークをテーマに全世界から論文募集をしております．ただし、このこと自体は良いのですが、学会会員からの応募が少なく、結果的に会員からの掲載論文の数が少ないことはやはり望ましくなく、是非、この特集号への御投稿をお願い致します．なお、Behaviormetrikaの特集号は、依頼原稿ではなく、通常の査読課程を経て、採否が決定されます．行動計量学会のホームページに、CALL FOR PAPERSが、掲載されています(アドレス：http://sunyht2.ism.ac.jp/NEWS/DJBMS/koudou14.html)で、詳細はそれを参照して下さい．論文は直接高根先生宛て(下記住所)、１９９８年１月３１日までに送付して下さい．

欧文誌 Behaviormetrika 編集委員長
繁桝算男(東京大学総合文化研究科)

<送付先住所>
Professor Yoshio Takane
Department of Psychology, McGill University
1205 Dr. Penfield Avenue,
Montreal QC H3A 1B1 CANADA
email: takane@takane2.psych.mcgill.ca
TEL: 514 398 6125, FAX: 514 398 4896

和文誌編集委員会より

日本行動計量学会第25回大会で発表された演題のなかで，座長が学会誌投稿を推薦された発表があります．選ばれた会員には編集委員会より投稿依頼をしますので奮ってご応募下さるようお願い致します．なお，査読に関しては一般投稿と同様であることを申し添えます．

和文誌「行動計量学」編集委員長
久保武士（筑波大学臨床医学系）

行動計量学会理事会報告

平成9年9月5日に仙台市戦災復興記念館にて第4回理事会(出席者23名)が開催された．今期行動計量学会総会についての報告，第26回大会が平成10年9月16日(水)～18日(金)に立教大学(池袋)で開催予定，大会時に高校生向シンポジウムも企画中との報告があった．

各種委員会での検討中の議題は，和文誌編集委員会では編集状況に関する概要・論文審査基準に関して，欧文誌編集委員会では次年度のSpecial Issueおよび著作権に関して，会則検討委員会では，名誉会員の会費や役員の被選挙権，及び学会賞の規定等について，などであった．運営委員会では，2001年のサイコメトリックソサイティ・ヨーロッパミーティングの会合の日本開催に関連しての問題などが討議された等の報告があった．

第17回医療情報学連合大会の協賛，及び第5回ソフトコンピューティングに関する国際会議の後援が了承された．柳井理事長より，学術会議の統計学研連委員長は吉村功理事に決まったこと，同研連の委員として岡太理事を推薦したとの報告があった．

行動計量学のためのインターネット (2)

金沢大学文学部 岩本健良・中山大樹

今回は，インターネット入門編として，その仕組みの基礎や必要なソフトウェアとハードウェア，接続の方法や手続き，などを解説しているページをいくつか紹介しよう．初心者には直接役立つ資料となるだろうし，ベテランにとっても同僚や友人から尋ねられたときに紹介する資料として役立つだろう．

もし自分の研究室でインターネットが使えなくても，情報処理センターなどで使えるパソコンを見つけ，周囲の人に聞きながら少し操作すれば，本学会会員ならすぐインターネットの世界に入ることができるだろう．

1．インターネットの入門・初心者向けページ

(1)『インターネットで遊ぼう』

http://www.power.co.jp/tm/yoshi/

インターネットの基本的な情報や充実した用語集などがある．

(2)『インターネット&CG入門講座』

http://www.awave.or.jp/home/kondo/

基礎編，Windows編など細かく分かれている．トラブル対策など役に立つ情報が豊富．

(3)『YAHOOビギナーズガイド』

http://www.yahoo.co.jp/Computers_and_Internet/Internet/Information_and_Documentation/Beginner_s_Guides/

インターネット入門に関するリンク集

(4)『CSJインデックスビギナー向けリンク集』

http://www.egg.or.jp/csj/Yellowpage-j/beginner.html

初心者のためのよくある質問集，ホームページの作り方関係などが多い．

(5)『ネチケットホームページ』

http://www.cep.chiba-u.ac.jp/HAKKEN/togane-ghs/netiquette/

ネットワークのエチケットに関する情報，参考資料などの紹介．

2．教育プログラム紹介

自然系の学会はもちろん，人文社会系でも多くの学会が，インターネットの解説や紹介を学会誌や大会時のセミナーなどで行っている．この10月に開かれた日本教育社会学会大会では，インターネット利用上の問題点と解決法について，情報交換と議論を行ない，ホームページでも資料を広く公開している（大会前にはメーリングリストも活用）．どの分野の研究者にも共通する内容で，初心者にも親切で分かりやすい．会場に行かなくても参加できる学会大会の方法としても参考になるだろう．この学会はインターネット導入ワーキンググループを設けて組織的に会員内外との情報交換に取り組んでいる．

ラウンドテーブル「教育社会学研究とインターネット」

http://doll.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/kyosha/RoundTable97/

収録の資料

a) 文科系研究者のためのインターネット入門Q&A

b) WebSiteの作り方

c) コンピューターとインターネットで何ができる？ 情報化へのいざない／ホームページ作成に関連した情報提供

d) 民間プロバイダーを使ったインターネット利用

e) html 入門（ホームページの書式入門）

また，インターネットによるオンライン・ジャーナル等も試行している．

「オンライン・ジャーナルの可能性と課題」

http://133.6.160.100/user/prof/p1ushiogim/experiment.htm

関連学会のお知らせ

＜学会大会，研究会，シンポジウム等＞

☆日本分類学会第14回研究報告会

期　日：1997年12月26日(金)
場　所：統計数理研究所
照会先：日本分類学会事務局
〒106　港区南麻布4-6-7　統計数理研究所 気付
Tel：03-3446-1601
e-mail: ohsumi@ism.ac.jp

☆Tsukuba International Conference on Memory
（TIC98 筑波国際記憶会議）&
The Second Japanese Conference on Memory
（第2回 JCOM）

テーマ：意識と記憶
Consciousness and Memory:
Current Progress and Challenges
期　日：1998年3月16日(月)，17日(火)，18日(水)
会　場：筑波大学 国際会議室
照会先：TIC98事務局
〒305　つくば市天王台1-1-1　筑波大学心理学系内
Fax: 0298-53-6713（TIC98事務局宛と明記）
e-mail: tic98@human.tsukuba.ac.jp
http://www.human.tsukuba.ac.jp/tic98

☆日本発達心理学会第9回大会

会　期：1998年3月26日(木)～28日(土)
会　場：日本女子大学 目白キャンパス
照会先：〒214 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学人間社会学部内
日本発達心理学会第9回大会準備委員会
Tel: 044-952-6890　Fax: 044-952-6909
e-mail jsdp9-req@ikuta.jwu.ac.jp
http://www.ikuta.jwu.ac.jp/jsdp/jsdp1.html

☆電子情報通信学会「人工知能と知識処理」研究会・情報処理学会「知能と複雑系」研究会
合同研究会

テーマ：「複雑系と社会」および一般
日　時：1998年1月22日(木)，23日(金)
場　所：大阪市立大学学術情報総合センター
http://www.osaka-cu.ac.jp/
照会先：北村泰彦 大阪市立大学工学部情報工学科
〒558　大阪市住吉区杉本3-3-138
E-mail: kitamura@info.eng.osaka-cu.ac.jp
Tel&Fax:(06) 605-3081（研究室直通）

☆日本認知科学会 冬のシンポジウム

テーマ：ゲームと認知科学
日　時：1997年12月13日(土) 9:30 - 17:00
会　場：東京工業大学大岡山キャンパス西2号館4階 W421
照会先：松原 仁（電子技術総合研究所）
tel: 0298-54-5917 fax:0298-54-5918
e-mail: matsubar@etl.go.jp
認知科学会ホームページも参照：
http://www.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/

＜科研費に基づくシンポジウム＞

☆「多変量解析手法の適用による大学入試データ解析システムの開発」研究集会

科研費 基盤研究A：研究代表者　柳井晴夫（大学入試センター）
期　日：1997年12月11日(木)，12日(金)
場　所：大学入試センター2階大会議室
照会先：柳井晴夫 大学入試センター研究開発部
〒153 目黒区駒場2-19-23
Tel：03-5478-1283　Fax：03-5478-1297
E-mail: yanai@rd.dnc.ac.jp

☆「調査環境の変化に対応した新たな調査法の研究－電子調査法とそれが抱える諸問題－」小研究会（科研費重点領域「ミクロ統計データ」A02班
「ミクロデータ利用の社会制度上の問題」，公募班）

研究代表者　：大隅昇（統計数理研究所）
オーガナイザ：吉村宰（統計数理研究所）
期　日：1997年12月25日(木)，13時30分～
場　所：統計数理研究所，講堂（2階）を予定
照会先：〒106　東京都港区南麻布4－6－7
統計数理研究所 調査実験解析研究系
吉村宰（osamu@ism.ac.jp）
Tel: 03-5421-8786, Fax:03-5421-8796

以下の3件は，統計関連学会のホームページも参照のこと．
http://sunyht2.ism.ac.jp/SYMPO/StatConf.html

☆「数理統計学における情報抽出の理論と応用に関する研究」

［科研費基盤研究（A)(1)］（研究代表者：田栗正章）によるシンポジウム
○「統計的推測の基礎理論と応用の研究」
研究分担者：鈴木 武(早稲田大)，橋本 勲(阪南大)，山田作太郎(東京水産大)
日　時：1997年12月11日(木)～13日(土)
場　所：大阪市立大学文化交流センター
照　会　先：〒169 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学理工学部情報学科

Tel. 03-5286-3336 (fax 兼)
E-mail : tasuzuki@mn.waseda.ac.jp

○「推定論とその応用の研究」
研究分担者：久保川達也(東京大)，赤平昌文(筑波大)，狩野 裕(大阪大)，栗木 哲(統数研)
日 時：1997年12月18日(木)，19日(金)
場 所：統計数理研究所
照会先：久保川 達也
〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学経済学部
Tel. 03-3812-2111(Ext: 5656) Fax. 03-3818-7082
E-mail : tatsuya@e.u-tokyo.ac.jp

☆「非線形統計モデルにおける統計理論とその応用の研究」[科研費基盤研究 (A) (1)](研究代表者：白旗慎吾)によるシンポジウム
○「非線形統計モデルにおける統計理論とその応用の研究 ―― 第2部」
研究分担者：越智義道(大分大学工学部)
日 時：1998年2月12日(木)，13日(金)
場 所：大分市 富士通システムラボラトリ
照会先：越智 義道(大分大学工学部知能システム工学科)　〒870-11 大分市大字旦野原700

☆「複雑非線形現象の統計理論の開発と応用」[科研費基盤研究 (B) (1)](研究代表者：柳川尭)によるシンポジウム
○「多次元データ構造の探索および解析」
研究分担者：大瀧 慈(広島大)，越智義道(大分大)，藤井良宜(宮崎大)，柿沢佳秀(北海道大)，田栗正章(千葉大)
日 時：1997年12月11日(木)～13日(土)
場 所：広島大学・広仁(こうじん)会館
照会先：大瀧 慈(広島大)　Fax. 082-256-7106
E-mail : ohtaki@ipc.hiroshima-u.ac.jp

＜チュートリアル類＞
☆統計数理研究所公開講座
「特論：季節調整法のフロンティア
―方法とコンピュータ実習―」
日 時：1998年2月17日(火)～19日(木)，10:00～16:00
場 所：統計数理研究所 講堂
申込受付：1998年1月5日(月)～23日(金)
講習料：6400円
照会先：〒106 港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 公開講座担当係(中島)
Tel : 03-5421-8720 Fax: 03-5421-8796
E-mail: nakajima@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/

公募情報

☆岐阜大学地域科学部
職名・人員：助手1名
専門領域 ：社会工学分野(自然科学的アプローチ，社会科学的アプローチ，いずれも可)
担当科目 ：専門科目及び教養科
応募期限 ：1997年12月5日(金)
照会先 ：〒501-11 岐阜市柳戸1番1
岐阜大学地域科学部
Tel: 058-293-3000(学部長室) Fax:058-293-3008

☆石川県立看護大学(仮称)(平成 12 年開学予定)
看護専門・基礎教育担当教員募集
職 名 ：教授，助教授又は講師(領域毎に若干名)
専門領域：人間機能・病態学/保険・治療学/基礎看護学 I/基礎看護学 II/母性看護学/小児看護学/成人看護学/老年看護学/地域看護学/在宅看護学/精神看護学/健康体力科学/心理学/哲学/経済学/福祉学/人間工学/情報統計学/語学
応募期限：1997年12月9日(火)
照会先 ：石川県総務部 看護大学設立準備室
〒920-80 石川県金沢市広坂2-1-1
Tel : 076-223-9437(直通)
e-mail: e110301@pref.ishikawa.jp

☆広島大学総合科学部
所属講座：数理情報科学コース情報行動基礎研究講座
職名・人員：助教授又は講師 1名
分 野 ：数理・応用統計学，データ解析学
担当科目 ：数理統計学関連科目，データとその統計的処理法，統計データ解析など
応募期限 ：1997年12月12日(金)
照会先 ：広島大学総合科学部 数理情報科学コース 教授 西井龍映
Tel: 0824-24-6474・6465 Fax: 0824-24-0766
e-mail:nishii@mis.hiroshima-u.ac.jp

☆北海道大学文学部
所属講座 ：心理システム科学講座
職名・人員：助教授1名
専門分野 ：心理学
担当科目 ：学部及び大学院における心理学の講義，演習,実験実習，研究法
採用予定年月日：平成10年年10月1日
応募期限 ：1997年12月19日(金)
照会先 ：北海道大学文学部 心理システム科学講座 主任 阿部 純一

〒060　札幌市北区北 10 条西 7 丁目
Tel: 011-706-4156
E-mail: abe@hubs.hokucai.ac.jp

☆富山大学経済学部
学科名　　:経済学科
大講座名　:政策科学
担当科目　:「統計学」または「計量経済学」
職名・人員 :助教授, 講師, または助手　1 名
採用予定年月日:平成 10 年 9 月 1 日もしくは平成 11 年 4 月 1 日
応募期限　:1998 年 4 月 15 日(水)
照会先　　:富山大学経済学部
〒930　富山氏五福 3190 番地
Tel: 03-0764-45-6401　Fax:0764-45-6419

会員による著作書

狩野 裕(著)
「グラフィカル多変量解析」
現代数学社 1997 年

服部 環・海保博之(著)
Q&A心理データ解析
福村出版 1996

林知己夫, 入山映(著)
公益法人の実像.
ダイヤモンド社 1997

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数
(1997年11月現在)

正会員	913人
準会員	47人
名誉会員	5人
賛助会員	24社

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」
〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

編集後記

第 25 回行動計量学会大会は東北地方での初めての大会でしたが, 盛会のうちに終えました. 開催までの関係者の方々の地道で大変な努力を, 巻頭言を読んで初めて知りました. ご苦労様でした.

学会では現在各種委員会の引継ぎも終わり, さらに活気ある学会運営を目指して活動を始めております. 学会を活発にしていくためにも, 学会で発表なさった研究を発表だけに終わらせず, ぜひ論文として投稿して下さい. また, 会報を会員相互のコミュニケーションの場としても, 活用して下さい. 会員の皆様からの御意見など, お待ちしております.

原稿の送り先は次の通りです.

会報原稿送付先
〒173　東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)

平成 8年度会計決算報告

収入	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	3,644,792 円	3,644,792 円	0 円	(注1) シンポジウム参加費 30,000円
学術定期刊行物補助金	920,000	920,000	0	郵送料立替分 281,040円
学会費	4,359,000	8,310,200	3,951,200	寄附 50,000円
学会誌売上金	550,000	405,464	△ 144,536	
預金利子	800	599	△ 201	
雑収入	300,000	631,040 (注1)	331,040	
学会賞基金からの副賞	150,000	100,000	△ 50,000	
計	9,924,592 円	14,012,095 円	4,087,503 円	

支出	予算	決算	増減	備考
学会誌制作費	6,343,379 円	6,062,734 円	280,645 円	(注2)平成 7年度未発行分
和文誌22巻2号	1,081,500	1,081,500 (注2)	0	
〃 23巻1号	900,000	1,060,900 (注2)	△ 160,900	(注3)欧文誌編集委員会 90,000円
〃 23巻2号	900,000	0	900,000	和文誌編集委員会 90,000円
欧文誌 Vol.23,No.1	1,461,879	1,461,879 (注2)	0	運営委員会 90,000円
〃 Vol.23,No.2	1,000,000	993,795	6,205	
〃 Vol.24,No.1	1,000,000	1,464,660	△ 464,660	(注4)3グループ
シンポジウム費用	50,000	50,000	0	
各種委員会活動費	270,000	270,000 (注3)	0	(注5)消費税
小グループ研究会費	200,000	150,000 (注4)	50,000	
学会事務委託費	1,320,000	1,406,336	△ 86,336	(注6)選挙人名簿出力費 3,296円
管理費	110,000	110,000	0	セミナー手数料及びプログラム
新入会員・移動処理	80,000	87,700	△ 7,700	発送手数料 62,567円
発送手数料	1,100,000	1,167,675	△ 67,675	
その他	30,000	40,961 (注5)	△ 10,961	
人件費	0	0	0	
印刷費	350,000	289,273	60,727	
通信費	1,100,000	1,333,278	△ 233,278	
消耗品費	11,213	2,697	8,516	
会合費	30,000	112,038	△ 82,038	
雑費	0	65,863 (注6)	△ 65,863	
学会誌保管料	100,000	228,660	△ 128,660	
予備費	0	0	0	
学会賞副賞	150,000	100,000	50,000	
次年度繰越金	0	3,941,216	△ 3,941,216	
計	9,924,592 円	14,012,095 円	△ 4,087,503 円	

日本行動計量学会

自 平成 8年 4月 1日

至 平成 9年 3月31日

結果、事実のとおり

相違のないことを証します。

監事 丘本 正

監事 [illegible] 守男

平成 9年度予算

収入	平成 9年度予算	平成 8年度実績	備考
前年度繰越金	3,941,216 円	3,644,792 円	(注1)学会事務センターより返却分
学術定期刊行物補助金	940,000	920,000	28,860円を含む
9年度学会費	3,848,400	8,310,200	
学会誌売上金	410,000	405,464	
預金利子	600	599	
雑収入	400,000 (注1)	631,040	
学会賞基金からの副賞	150,000	100,000	
計	9,690,216 円	14,012,095 円	

日本行動計量学会

自　平成 9年 4月 1日

至　平成10年 3月31日

支出	平成 9年度予算	平成 8年度決算	備考
学会誌制作費	5,997,500 円	6,062,734 円	(注2)　平成 8年度未払分
和文誌23巻2号	997,500 (注2)	1,081,500 (注3)	
〃　24巻1号	1,000,000 (注2)	1,060,900 (注4)	(注3)　22巻 2号
〃　24巻2号	1,000,000	0	
〃　25巻1号	1,000,000	1,461,879 (注5)	(注4)　23巻 1号
欧文誌 Vol.24,No.2	1,000,000	993,795 (注6)	
〃　Vol.25,No.1	1,000,000	1,464,660 (注7)	(注5)　Vol.23 ,No.1
シンポジウム費用	50,000	50,000	
各種委員会活動費	270,000	270,000	(注6)　Vol.23 ,No.2
小グループ研究会費	200,000	150,000	
学会事務委託費	1,400,000	1,406,336	(注7)　Vol.24 ,No.1
管理費	110,000	110,000	
新入会員・移動処理	80,000	87,700	
発送手数料	1,170,000	1,167,675	
その他	40,000	40,961	
人件費	50,000	0	
印刷費	240,000	289,273	
通信費	1,100,000	1,333,278	
消耗品費	10,000	2,697	
会合費	50,000	112,038	
雑費	22,716	65,863	
学会誌保管料	150,000	228,660	
予備費	0	0	
学会賞副賞	150,000	100,000	
計	9,690,216 円	10,070,879 円	